

自己評価報告書

平成23年 5月 6日現在

機関番号：33905

研究種目：若手研究 (B)

研究期間：2008～2011

課題番号：20700651

研究課題名 (和文) ミュージアムにおける先端研究を反映させた
展示解説システムの開発に関する研究研究課題名 (英文) Research on development of exhibition explanation system
that reflects advanced research in museum

研究代表者

岩崎 公弥子 (IWAZAKI KUMIKO)

金城学院大学・現代文化学部・准教授

研究者番号：50345427

研究分野：総合領域

科研費の分科・細目：科学教育・教育工学・教育工学

キーワード：教材情報システム、オンラインミュージアム

1. 研究計画の概要

本研究は、先端的な博物館研究をもとに、博物館の展示手法、ならびに、展示解説システムのあり方を研究するとともに、実際にコンテンツ開発を行うものである。

(1) 展示における学びの過程 (making of meaning) の調査

博物館学者 Falk, John H.氏が論じる博物館の学びの構造をもとに、博物館で来館者が実際に体験する事柄を詳しく分析し、博物館で「市民が何を得ているか」を明らかにする。その結果から、新しい博物館展示システムを提案する。

(2) 展示解説システムの開発

名古屋市科学館の来館者調査や市民アンケートの分析をふまえ、博物館体験を整理しそれをもとに「思い出」ベースのバーチャルミュージアムを開発する。さらには、研究者の参画が展示解説には有効であるとの分析から、専門家と資料の融合した展示解説システムを金城学院大学の里山を舞台に開発する。

2. 研究の進捗状況

(1) 展示における学びの過程 (making of meaning) の調査

2008～2009年にかけて博物館体験の文献調査、ならびに、来館者アンケート調査などを実施した。その結果、博物館体験とは、科学館が提示する知識に基づくものだけではなく、個人的コンテキストや社会的コンテキストが大きく博物館体験に影響を与えることが明らかになった。その視点に基づき、2010年

度は名古屋市科学館にて大規模な来館者調査を実施した。そこで収集したアンケート結果を「思い出」と名付け、「市民が博物館で得たもの」の分析を行った。

(2) 展示解説システムの開発

(1)の調査結果をふまえ、新しい展示システムの提案を行うものである。実際に2つのコンテンツ開発を行っている。2010年度までにプロトタイプを完成させ (一部実証実験段階)、2011年度に本格稼働させる。

①「思い出」をベースにしたバーチャルミュージアム (名古屋市科学館)

市民のアンケート調査によって得た思い出を「学ぶ」「楽しむ」「安らぐ」など8つの動詞にグルーピングした。そして、各々の思い出を提示し、博物館内を閲覧できるシステム開発を行う。「デジタルタイムカプセル」と名付けた本システムでは、博物館で市民が実際に体験する様々な「体験」を表示させることにより、展示物の知識と個人的コンテキスト等を融合させた新しい展示の見せ方を提案する。

②携帯端末を活用した解説システム (金城学院大学里山)

「専門家の知識との融合」「ストーリー性」の視点を取り入れた解説システムを、金城学院大学の里山を舞台に提案するものである。

(1)で明らかにした「個人的コンテキスト」の視点を解説システムに応用し、様々な利用者に対応できる解説システムへと発展させ、新しいガイドシステムを提案する。

3. 現在までの達成度

②おおむね順調に進展している。

2009年度までに博物館体験調査ならびに一般市民アンケートおよび分析をふまえ、新しい展示システムのあり方を整理することができた。また、2010年度にはこれらの分析結果をふまえ、システムのプロトタイプを完成させ、名古屋市科学館の1展示物として、また、金城学院大学のキャンパスツアーにおける携帯観察ガイドシステムとして、コンテンツの一部が稼働している。2011年度には更にユーザビリティ調査などを重ね、より使いやすいコンテンツを提案していきたいと考える。

4. 今後の研究の推進方策

本研究の軸となる「博物館体験」で重視する「個人的コンテキスト」をシステムに反映させる手法にさらなる工夫が施せると考える。「個人的コンテキスト」は、諸個人により得られる体験が異なる。そのため、より来館者がもつコンテキストにあわせて提示するコンテンツを変更したり、来館者の各コンテンツをアーカイブしていきそれを反映させる展示物のあり方も今後提案していきたいと考える。

5. 代表的な研究成果

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計1件)

① 岩崎公弥子, 小野知洋, 河村典久, 柳谷勝, 里山の資源を活用した教育活動の実践、金城学院大学論集、7巻2号、1-12、2011年、無(査読)

[学会発表] (計3件)

① 岩崎公弥子, 後藤昌人, 遠藤守, 毛利勝廣, 安田孝美, 思い出をベースにしたバーチャルミュージアムの提案と開発、日本社会情報学会、2010年9月5日、長崎県立大学シーボルト校(長崎県)

② 吉田杏奈, 岩崎公弥子 (他14名)、市民の思い出をベースにした名古屋市科学館バーチャルミュージアムの開発、PCカンファレンス、2010年8月8日、東北大学(宮城県)

③ 松山愛子, 森月綾美, 小野知洋, 岩崎公弥子, 里山の環境教育—iPod touchアプリケーションの開発と利用実践、PCカンファレンス、2010年8月8日、東北大学(宮城県)

[図書] (計0件)

[産業財産権]

○出願状況 (計0件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

○取得状況 (計0件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

[その他]